

橋の名称

樋詰橋

ひのつめばし

竣工年月

1927: 架設、1964,1982: 架替

所在地

埼玉県桶川市川田谷

用途

生活道路



上部工

単純5主桁橋

下部工

橋台:コンクリート
橋脚:パイルベント, $\Phi 400$

基礎工

杭基礎(橋脚と一体構造)

橋長(mm)

49,500

最大スパン(mm)

7,000

有効幅員(mm)

3,300

舗装種類

密粒アスファルトコンクリート

橋梁形式に特有な寸法

その他

支承形式

設計荷重(主)

6ton(下記示方書によるとすれば)
現在は農業用トラクター荷重と解釈

設計荷重(従)

設計示方書

(推定)木道路橋設計示方書案(1940年)

参考図書

木橋の選択 理由・期待された効果

木橋が一般的であったためと考えられる

周辺環境 自然

荒川低水路

社会

耕作地、近接橋梁の混雑(とくに通勤時)

法規制

建設省荒川上流工事事務所から占用許可(毎年更新)

構造 デザインコンセプト

検討された形式

特徴・留意点

路面が凍結して危険なため、アスファルト舗装を施した。
高欄:地覆(路面からの高さ160mm)にガスパ管を建て込み、ビニール被覆ワイヤロープ2本を張り渡して構成、出水時には撤収する。

耐久性向上策

亜鉛メッキボルトを使用

架設 工法

トラッククレーン架設(両岸より)

選択理由

部材が軽量のため

全体工期

実質50日:12月末~3月4日

架設後 利用状況

1993年10月19日の日交通量:自動車1575、自転車・バイク207、人6

点検補修

管理要員からの報告により、必要に応じてクレオソート塗布などを実施。1964年架け替え後、10年程度で架け替え、最新は1983年、1992年に小修理、1997年3月上旬工復旧

管理要員

近隣住民13名に年間委託:序での折の目視点検、出水時に防護策を撤収など

広報 パンフレット・報道

読売新聞 1997.8.24

実験報告書、論文など

「調査・予備設計」・1990年3月・新構造技術、
「1998年度 調査」・1999年3月・新構造技術

部材・部品の仕様**樋詰橋****木製部材・部品****総使用材積(m3)** 56(スギ28.8, ベイマツ27.2)

構造材・部材名	種類と等級	防腐処理	断面寸法(mm)	使用材積(m3)
主桁および枕梁	製材・ベイマツ	クレオソート油塗布	300×300	27.16

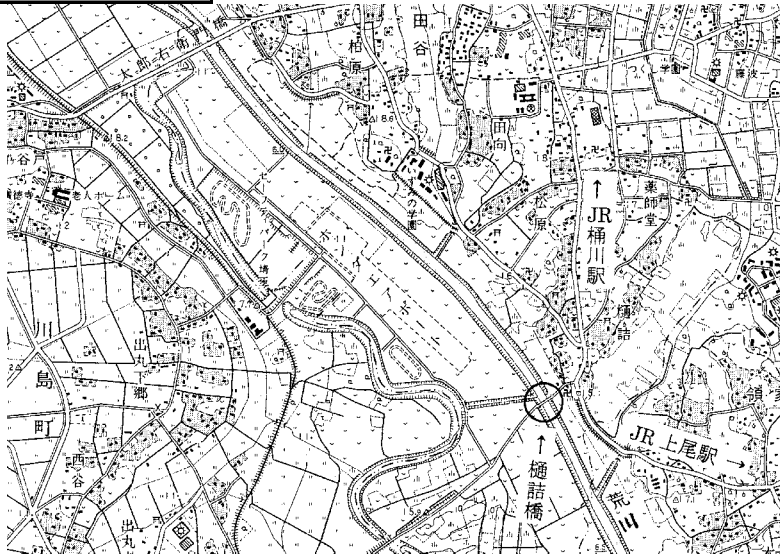
床組・部材名	種類と等級	防腐処理	断面寸法(mm)	使用材積(m3)
敷板(30mm程度 の間隙を残して敷 き並べる)	製材・スギ	クレオソート油塗布	150×90	14.14

床板	種類と等級	防腐処理	厚さ(mm)	使用材積(m3)
床板	製材・スギ	クレオソート油塗布	60	9.76

高欄部材	種類と等級	防腐処理	使用材積(m3)
土留め、地覆	製材・スギ	クレオソート油塗布	4.9

金物 部品**使用鋼材重量(kg)**

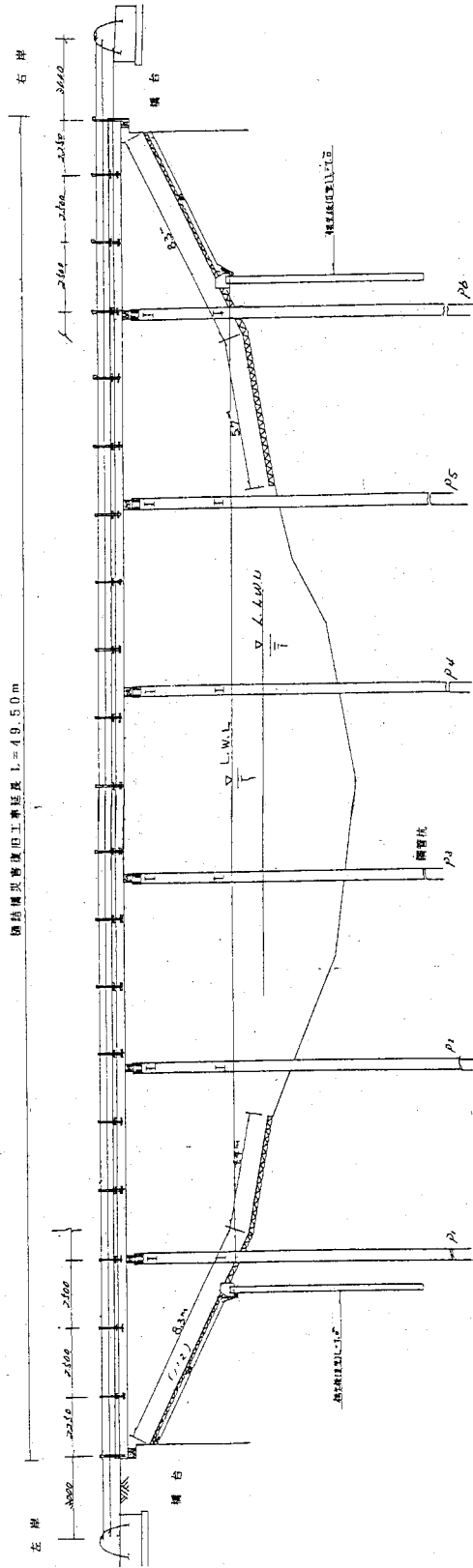
接合金物・部品名	金物・材質	防錆処理
16mm羽子板ボルト	(建築用市販品)	亜鉛メッキ処理

場所 地図**施主(発注者)** 桶川市都市整備部土木管理課**設計者** 同上**施工者** (市内A級一般建設業)**総工費(万円)** 2,540

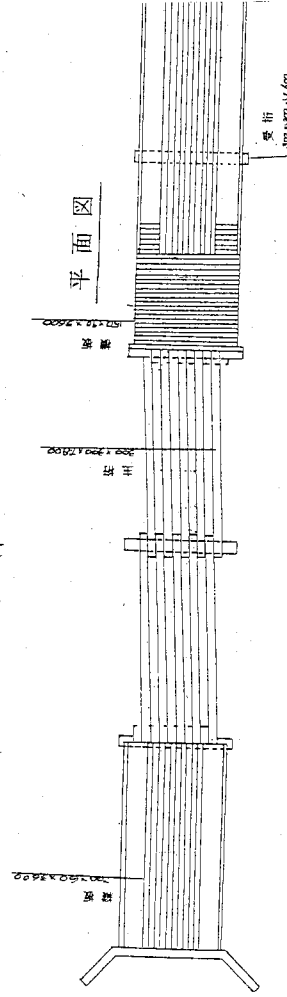
侧面图 S=1:200

牙子方子(规格4553 (mm))

钢轨铺设间距 L=49.50m



平面图



钢脚箱体取付横断面 S=1:100

